

平成18年度第5回理事会議事概要

日 時 平成18年8月25日（金） 13:30～14:40

場 所 特別会議室

出席者	理事長	大 熊 幹 章
	理事（企画・総務担当）	川 喜 多 進
	理事（森林研究担当）	石 塚 和 裕
	理事（林業・木材産業研究担当）	久 田 卓 興
	監事	真 柴 孝 司
	監事	井 上 徹 雄
	企画調整部長	志 水 俊 夫
	総務部長	金 澤 弘 行
	事務局（企画科長）	大 河 内 勇
	事務局（総務課長）	土 肥 史 朗

1. 開会

2. 議事

（1）第25回独立行政法人評価委員会林野分科会について

（志水企画調整部長）

＜資料1：第25回独立行政法人評価委員会林野分科会議事次第により説明＞

平成18年8月21日に第25回独立行政法人評価委員会林野分科会が開催され、当所の平成17年度および中期目標期間に係る業務実績に関する評価結果について、それぞれ「平成17年度の業務の実績に関する評価結果」、「中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果」に基づき以下の説明があった。

平成17年度の業務実績に関する評価結果は、28評価単位のうち4単位がa+評価、24単位がa評価であり、総合評価の評定はAとなった。なお、業務運営に対する総括的な意見として、研究所の業務運営の改善に資するため3点の意見が述べられている。

中期目標期間全体の業務実績に関する評価結果は、28評価単位のうち3単位がa+評価、25単位が

a 評価であり、総合評価の評定はAとなった。なお、業務運営に対する総括的な意見として、研究所の業務運営の改善に資するため3点の意見が述べられている。

また、最後に評価委員から当所に対して以下の5点のコメントをいただいた。

1. 研究論文について、研究の中身を噛み砕いてほかにも分かり易いような情報を示して頂きたい。それについてメディアも利用して欲しい。
2. 統合に向けてうまくやって欲しい。特に組織の大きい方がうまくやって欲しい。
3. 広報的なものもあるが、森林総研の内容を一般の人に知られる方法を考えて欲しい。費用対効果的な評価を今回実施しているが、それが故に本来蓄積をもっている森林総研の良さが失われているように感じる。学術論文だけでなく一般誌への投稿を評価してはどうか。
4. 評価委員会では膨大な補足資料を提出してもらっているが、そういったものをホームページで公開し情報提供してはどうか。
5. 地域との連携をうまくやって欲しい。支所に対する期待の意味もある。課題のたて方についても地域からの要望があったらくみ取って欲しい。

また、分科会長から当所に対して、森林総研は過去の成果を土台にして重要な役割を果たしてきており、積み重ねを大事にして欲しい、積み重ねがわかる研究が重要であろうとのコメントをいただいた。

(大熊理事長)

補足として、分科会としては今回が最後であるが、8月30日の農林水産省独立行政法人評価委員会が最終評価となる予定である。

(大熊理事長)

評価の中で支所の顔が見えないとあるが、これは我々にとって厳しい言われ方である。

(石塚理事)

第1期中期目標期間では、まだ見える状態にしてあった。エ研究分野には北海道・東北・四国・九州で研究項目をもっていたし、関西についてはキ研究分野の山村振興でしっかりとした課題をもっていたので、まだ見える状態であった。支所の活動については、第2期中期目標期間のほうが全く見えなくなるので、評価シートの書きぶりを考える必要がある。

(大熊理事長)

本件の資料については、林野庁の公表状況を確認した後に公開するものとする。

本件については、報告のあったとおり了解する。

次回の平成18年度第6回理事会は9月29日（金）を予定する。

3. 閉会